

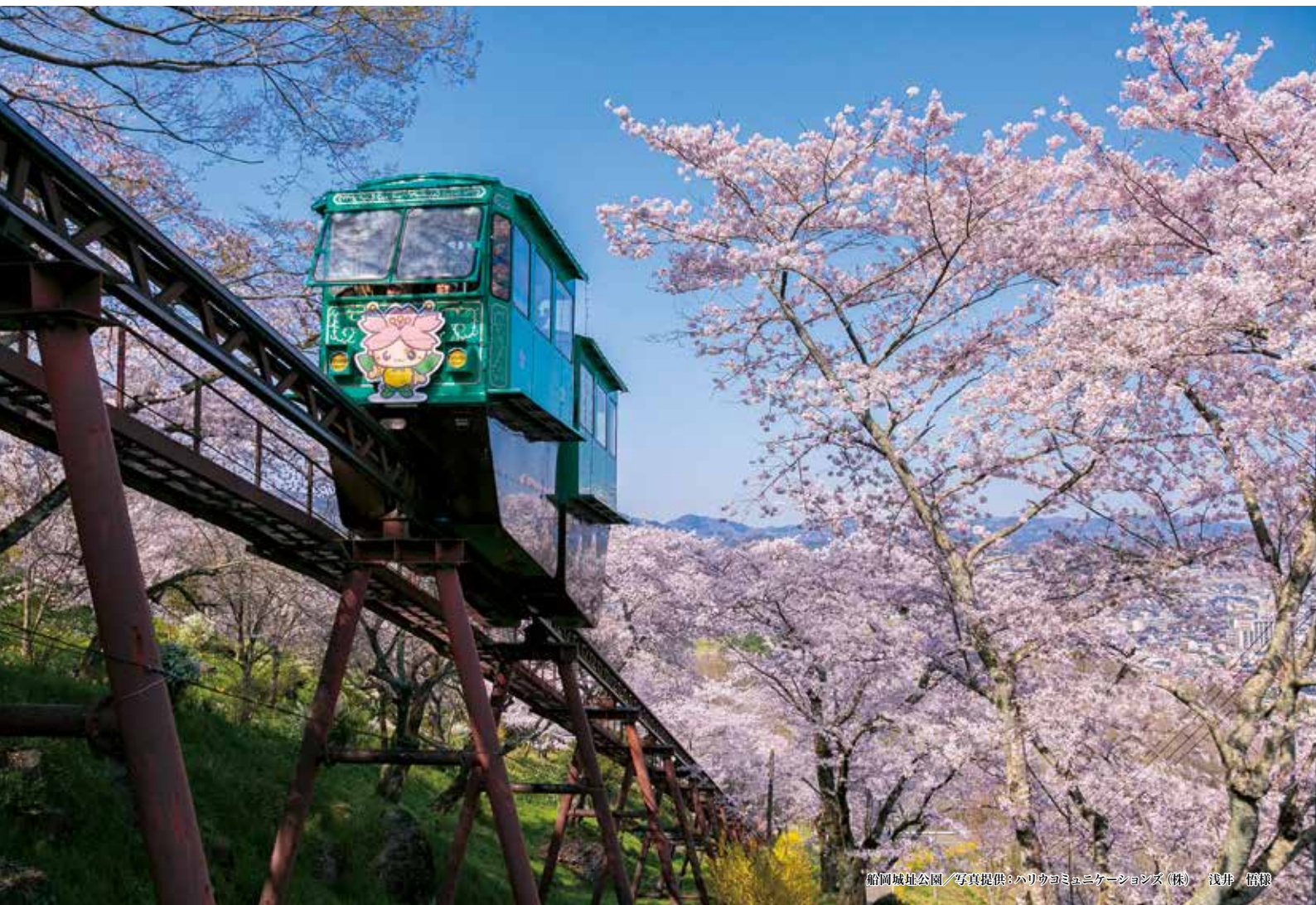


No.41

2017 April
[MISA会報 第41号]

- 賀詞交歓会・新春講演会
- 平成29年度MISA事業計画
- MISA中期事業計画（平成29～31年度）概要
- 各種委員会報告
- 新入会員紹介

■発行／一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会 仙台市青葉区上杉1-6-10仙台北辰ビル5F 【TEL】022 (217) 3023 【FAX】022 (217) 3055 【E-mail】misa@misa.or.jp
■URL/http://misa.or.jp ■企画・編集／広報委員会 ■印刷／ハリウ コミュニケーションズ株式会社



賀詞交歓会開催

新春恒例の賀詞交歓会が平成29年1月12日（木）パレス平安において東北経済産業局、宮城県、仙台市、関係団体からのご来賓を含め、会員皆様250名を越える出席のもと開催されました。

はじめに、協会を代表し早坂会長より、新年の挨拶があり、株式会社原田武夫国際戦略情報研究所代表取締役の原田武夫氏に「トランプ新政権発足後の世界を先取りする～具体的な打ち手は何か～」と題して、トランプ政権誕生に関わる秘話を含め、経済の基本原則やサイバーセキュリティへの取組への重要性等、ICT産業の活性化に向けた貴重な講演を頂きました。引き続き交流会に入り、ご来賓の皆様よりご祝詞をいただいた後、当協会顧問の宮崎氏の乾杯の

音頭により懇談となりました。

景気回復の兆しが見えてきた中、余興のジャズ演奏等による新春独特の華やかさも加わり、これまでにない多くの参加をいただき始終和やかな雰囲気の中、会員相互の情報交換や親睦を深める場となりました。中締めは荒井副会長に三本締めの音頭をとっていただき盛況裏に終了することが出来ました。ご来賓、そして会員の皆様の多数ご出席いただきましたこと、心より御礼申し上げます。



新春講演会・賀詞交歓会 会長挨拶

一般社団法人宮城県情報サービス産業協会 会長 早坂 栄二



皆さん、明けましておめでとうございます。

宮城県情報サービス産業協会会長を仰せつかっている早坂でございます。

皆様と一緒にこのように新春を迎えられますことをまずもってお慶び申し上げます。

年頭に当たり一言ご挨拶申し上げます。

本日は、新春講演会並びにMISA賀詞交歓会に、ご来賓の皆様を始め多数の会員の皆様にご参加いただきまして誠に有り難うございます。

また旧年中は、当協会の事業活動に対しまして、格段のご支援ご協力を賜りました。あらためて御礼申し上げます。

さて、我が国の2016年度の景況ですが、一言で申し上げますと緩やかな景気回復が続くと予想されております。

雇用・所得環境の改善に支えられ個人消費の堅調な推移と海外需要の拡大や円安の進展を背景に企業収益が増加し、設備投資も徐々に回復基調にあるということです。また2017年度以降についても、総体的に回復が続くとされております。米国経済の大型減税やインフラ投資支援策等を受けて堅調な推移が、日本経済にとってプラス

に作用するとともに、円安の進展も引き続き企業収益を押し上げて設備投資を後押しすると予想されます。

反面景気の下振れリスクとして、①トランプ政権の政策、②中国経済の低迷、③米国の利上げに伴う金融・資本市場の不透明感等、まだまだ予断が許されない状況にもあります。

一方東北経済については、「一部に弱い動きがあるものの全体として緩やかな改善傾向にあり、先行きもこの状況が続く」ものと予想されています。（東経連の12月景気動向、30か月同一判断）住宅着工、公共投資の高水準な推移や設備投資の持ち直し、雇用の改善等がその理由です。

このような状況の中、我々IT業界のビジネス環境は、平成22年から増加傾向に転じ、昨年の「特定サービス動態統計（経産省）」によりますと全国で売上21兆円、従業員100万人弱、総生産額4%を超えていまして、日本経済を支える大きな業界として成長しつつあります。（自動車81万人、鉄鋼21万人、エレクトロニクス102万人）

また宮城県に目を転じますと、売り上げは約2千億円、全国10位の上位にあり、東北全体の60%を占め、従業

員も1万2千名程度と増加傾向にあります。

最近ではご存知の通りIBMさんをはじめ10社近くが仙台圏への拠点進出を決めており、今後ますますの成長が期待できるものと思っております。

皆様ご承知の通り、今日の情報システムは、社会・経済を支える必要不可欠なインフラであります。いま、そのITの飛躍的な進化が続いています。

今年は、スマホ発売から10年。一方AIの適用範囲が急速に増えており、それはIoTと結びつき、ことしはまた「IoT実用化元年」とも言われています。

まさにITは、国並びに企業にとって、競争力を高めイノベーションを誘発する強い武器です。また、社会や地域にとって、あらゆる分野の課題解決に期待される万能ツールであり、その重要性はますます大きくなっていきます。

そういったなか、私ども協会は、三年間の中期事業計画（平成29～31年度）を策定中ですが、地域IT業界としては、（テクノロジーやサービス、顧客ニーズなど）事業環境の変化を新たな機会（チャンス）にとらえ、会員企業の成長・発展とIT（利活用）による地域の発展との両立を目指すべきと考えます。

そこで大事なことは、「当地域のみをマーケットとして地域に貢献する」というアプローチにこだわらず、IT産業としてしっかり成長・発展させることで雇用を増や

し、地域経済を盛り上げる、それが最大の地域貢献になると考えます。

そのため、当協会としてこれまでの実績を着実に実践していくと共に、各社のビジネスがさらに拡大するように「ビジネスチャンスの創出」や「経営強化に資する施策」にも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

MISAは東北および県内最大のIT業界団体であり、経済産業局、宮城県、仙台市等公共関連機関との密接な協力関係にもございます。一層のご協力・ご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

そして会員企業の皆さま、どうか今年も旧年にも増してご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日の新春講演会は、原田武夫国際戦略情報研究所代表の原田様をお招きして「トランプ政権発足後の世界を先取りする～具体的打ち手は何か～」と題してお話をいただきます。

世界が注目している話題性ある、大変興味深い貴重なお話になるのでは、と期待しております。

原田様、お忙しいところ誠に有難うございます。どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、今年が皆様にとって良き年になりますよう祈念いたしまして、挨拶いたします。

新春講演会・賀詞交歓会 来賓挨拶

東北経済産業局 地域経済部 部長 **岩瀬 恵一 様**



情報関係業界のこの一年の動きを振り返りますと、一年前には考えられなかったことが結構起きたかなと思っております。身近な話題で申し上げますと、昨年3月には囲碁ソフトがプロ棋士を破り、7月にはARを活用したポケモンGOがブレイクし、10月にはバーチャルリアリティのソニーのゲーム機が発売され今でも品薄状態にあり、あるいは自動運転に関しては日産セレナが発売され、単一車線の中での自動走行がいよいよ実用化されたこと等かなりのインパクトがあった年であったと認識しております。

一方政府の方では、重点政策が昨年末に閣議決定され、国会審議を待っているところですが第四次産業革命によるIT活用あるいはロボット技術、ドローン利用等のプ

ラットホーム構築が経産省の予算・政策の一丁目一番地となっております。これは2年前の予算案では萌芽的なものでしかなかったのですが、今では重点施策となっており、本当に世の中の流れがかなり早くなっていることを実感しております。

私共東北経済産業局では、このような状況の中で何ができるかということですが、東北地域産業の競争力強化のために、企業の生産性向上のためという横断的な切り口でIoTをうまく活用している事例をできるだけたくさん探して、ご紹介できるよう横断的展開・取組を考えている最中でございます。

昨年もお話申し上げましたが、東北ではまだまだIoTの実態が浸透されていない状況にあります。現在取り

組んでおりますIoT推進ラボに無料登録いただき、ご活用いただければと思っております。

全般的な東北の状況につきましては、公式的には製造業の持ち直し、公共投資の比較的高水準な推移、個人消費の力強さ不足等が言われておりますが、今年の初売りの状況をお伺いしますと例年になく盛況で、高額な商品も結構売っていたという明るい話も聞いてございます。

それから、本日の日経新聞に載っておりましたが、仙台地域へのIT関連企業の進出もかなり進んできており、IT産業の活性化が期待されております。何とかMISAのお力も借りながら地域振興に頑張っていければと思っております。

今年も一年間よろしく願いいたします。

新春講演会・賀詞交歓会 来賓挨拶

宮城県震災復興・企画部 次長 **大山 明美 様**



皆様方には、日頃から本県の情報サービス産業の振興・発展にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、県の各種施策の推進にご理解・ご協力いただき改めて厚く御礼申し上げます。

さて、1月11日で、あの東日本大震災から5年10ヶ月となりました。現在、県ではこの大震災からの復興を最優先課題として、10年間の復興計画に基づき各種施策に取り組んでいるところでございますが、今年はこの復興計画の第2ステージである再生期の最終年度が4月から始まる年でもあります。また、復興計画の最終ステージである発展期につながる重要な年となっております。県といたしましては、一日も早い震災からの復興を目指し様々な課題に的確に取り組めますとともに、関係者の

皆様と連携を密にし復興のスピードアップを図ってまいりたいと考えております。

また、情報化に関する取り組みにつきましては、平成26年度に「みやぎICT推進プラン」を策定し様々な取組を進めてきたところですが、このプランもこの3月をもって期間を終了することとなっております。このため、現在、これまでの成果と課題をもとに、今後4年間の本県におけるICT利活用のあるべき姿を、まだ仮称であります「みやぎICT利活用推進プラン」という形でまとめる予定としております。

昨年の12月に中間案を発表させていただきましたが、そこでは「ICTで実現する豊かなみやぎ」という基本目標を掲げまして、活力ある豊かな社会の構築など、



4つの重点目標のもとにICT利活用を推進していくこととしております。

その中では、情報産業の振興あるいはICT人材育成というものも基本目標の一つに捉え、本県の情報産業の現状やニーズを踏まえまして、市場獲得支援や人材育成支援そして企業立地支援などへの取組を進めていきたいと考えております。

県といたしましては、ICTの利活用が震災復興、富県

宮城の実現そして地方創生にとって欠かすことのできないものと認識しておりまして、皆様方にはそのことをご理解いただき、今後とも、その実現に向けてご協力いただければと思っております。

最後になりますが、この1年が本日ご出席の皆様にとりまして良い年になりますことを祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

新春講演会・賀詞交歓会 来賓挨拶

仙台市経済産業局 次長 梅内 淳 様



皆様、明けましておめでとうございます。

先ほど、岩瀬様からIT企業の立地が進んでいるという日経新聞のご紹介がありましたが、今、大きな問題になっているのは人材の不足の問題だと思っております。

人材確保はITに限らず各種産業の中でボトルネックになっておりまして、特にIT業界は大変厳しい状況にあるようでございます。このような現状を鑑み仙台市としましても、会津大学さんや岩手県立大学さん、来週には、はこだて未来大学さんの方に参りましてネットワー

クによる企業とのマッチングを検討しているところでございます。

また、来年度はIoTやドローン活用等への支援もできるよう取り組んでまいりたいと思っております。

前のお二人のご挨拶がございましたので私からは以上でございます。

今年は酉年、「さんずい」がつくと「酒」ということで、お酒を飲みながら一年を祝いたいと存じます。今年もよろしく願いいたします。



平成29年賀詞交歓会記念講演（一部抜粋） 「トランプ政権発足後の世界を先取りする」 ～具体的打ち手は何か～

原田国際戦略情報研究所 代表取締役 **原田 武夫氏**



「私からのご提案」

私、新年のいろいろな業界団体の講演会にも呼ばれまして、お話しさせていただきますけど大体、いい話、おもしろい話みたいな感じで終わることが多いですが、今回は皆様方に具体的なご提案を持ってまいりました。

極端に申しますと、情報産業というのは、宮城県だけではなく東北復興の鍵にさせていただきたいと思っています。その際に申し訳ございませんが、現状の延長線上に輝かしい未来はないということです。やはり何か新しいチャレンジが必要ではないかと思っています。

そこで、私をご提案したいのは、例えばですけど、宮城県さんあるいは仙台市さんがフィンランドとの提携というのを進めておられますが、最近、ノキアも元気になってきて、スマホを出したみたいなことを言ってきましたけれども、これからいろいろ申し上げる理由でエストニアと組まれることをお勧めします。

これからは間違いなくサイバーセキュリティがものすごく重要になります。この分野で是非エストニアと組んで、仙台それから宮城県、東北全域、日本だけでなく東南アジア、そして世界全体のサイバーセキュリティの拠点にさせていただきたい。私どもとしてその辺のお手伝いが出来ればと思っています。東北復興に関しましても、未来永劫、国の支援というのは出来ません。親方日の丸ですっとやれる時代は終わったのです。地方公共団体は国に頼ってはいけません。そのことを是非ご理解いただきたい。

しかし、今やっておけばちゃんと打つ手はあります。特にIT産業は、先ほどお話ししましたが、サイ

バーセキュリティという最大の飯の種があると思っています。これをどこが取るか。エストニアは人口160万の国ですけれども、今のところ、ロシアに対する抑止力向上に力を入れており、安全保障上、この国だったら絶対変なことはしないと思っているのは日本しかないのです。彼らはビジネスパートナーをものすごく求めています。特にタリン大学ですが、そこにあるサーバーは世界で一番頑強であることは皆さんもご存知かと思います。

また、エストニアはITを行政に活用する「電子政府」を構築しており、国外の外国人にもインターネット経由で行政サービスを提供し、投資を呼び込むことにも力を入れています。

なぜ誰もそこに着目しようとしないのでしょか。

「トランプ大統領の役割」

経済は不可逆的に、今後数百年にわたって縮小していきます。こういう状況の中でとるべき道はインフレへの誘導です。しかし、大変難しい課題であり、普通のリーダーだとめげてしまいます。しかも経営を経験し経済を熟知してなければリーダーにはなれません。トランプが大統領になった理由がここにあります。

要するにアメリカ合衆国は、このままでは全員うつ病になってしまいます。しかも屈強な男がなくなってしまいます。

これまでは、グローバリズムといううつ病でした。どんどん世界のリーダーとして突き進んできたわけですが、やっぱり無理があるのかなということで、あるとき夢が覚めたわけです。

そうなるますます内向きになってきます。そうはいっても何とかしなければならない。

そして、元来、成功体験ある方がうつ病になった時に外部から攻撃を受けるとどうなるかという、普通ではキレないことでも反撃に出ます。だからまさに彼はその役割を担っているわけです。

ですから、これから彼はめちゃくちゃ言ってくると思います。もうその餌食がトヨタです。

ツイッターで「お前、メキシコに工場作ると言ってるんだって」これで1兆円です。

こんな素晴らしいリーダーはいないですよ。

とにかくアメリカは国内のあらゆる現状から立て直しに必死です。トランプという男を立てて世界を恫喝し、何とかしてお金をかき集め復活しようとしているわけです。

「経済の3つの基本」

1つは情報、これは皆さんの世界です。2つ目は金融、3つ目がエネルギーです。これらは世界史の節目で一瞬で動きます。なぜなら、その瞬間に床が変わるからです。今これはリノリウムですが、これを全部板敷にしますみたいに全部変えてしまう世界です。

ちなみに、この3つを握っている一族がいます。皆さん多分ご存じのロスチャイルド家です。

いわゆるヨーロッパの国際金融資本ですが、今この辺の人たちが動き始めています。いよいよ情報の世界が変わろうとしています。どう変わるかというとダークネットとブロックチェーンです。金融も変わります。クリプトカレンシー、仮想通貨。そしてエネルギーも変わります。何に変わるかというと、一般的には水素だと言われていますが、常温核融合に変わります。皆さん嘘かと思われるかもしれませんが、ビルゲイツのビル&メリンダ・ゲイツ財団がイタリアの常温核融合 (Cold Fusion) の研究をやっ

ている研究所に多額の融資をしています。もう一回言いますが情報、金融、エネルギーの3つがこれから根底から変わります。

要するに、この時代を通り抜けた後に勝ち残っているかどうかというふうに、早く考えた方がいいということです。考えてない人は、多分早ければ2年後、会社はなくなっているのではないのでしょうか。

「知恵の時代」

これからは、IoTで大量にデータ化された情報からインテリジェンスを生み出す、つまりそこから意味を読み取る作業が出来る人間か、出来ない人間の差になってきます。

恐らくほとんどの人達は出来ないわけですから、AIと競争になり年収200万以下になってしまいます。皆さん驚かれると思いますが、事実、東京都で18歳から45歳の結婚適齢期の女性たちの65%が年収200万以下です。これが日本の現実であり、AIがこれに拍車をかけていきます。だから私が申し上げたいのは雇用の創出です。でも雇用創出にあたっては根本的な発想を変えなければ駄目です。例えば雇用創出しやすい地域づくりをシステムやITでどうやって作っていくのかですが、情報産業だけでは厳しいと思います。今までのような重厚長大型のインフラに付属した形での情報産業という発想では一本足になってしまいます。ここに、全く新しい発想、知恵が求められる理由があるわけです。



平成29年度MISA事業計画

委員会名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
企画運営委員会		・事業運営会議(H29第1回)委員会	・理事会(第22・23回) ・第6回総会 ・講演会&パーティ		・顧問・参与懇談会 ・事業運営会議(H29第2回)委員会	
経営委員会	・法的問題対応研修セミナー ・経営強化 経営者や経営幹部が学び合う場の提供(実施内容検討) ・親睦ゴルフ大会(春季)	テーマ選定 ・MISA交流サロン 委員会		講師依頼 (準備) ・Misaliy女性交流会 委員会	・ISMSセミナー	・MISA交流サロン 委員会
人財確保推進委員会	・企業説明会・業界研究会等 (1)出前合同企業説明会(学内会場) (2)業界体験・企業研究講座の実施 (3)会員企業の採用力強化に向けた取り組み ・産学協同実践的IT教育事業 (大学・高専生・専門学校生・留学生向け) (開校準備作業) (講師派遣企業募集) (中学・高校向け出前授業)		(随時対応) (随時対応)	(随時対応)	・インターシップ体験型実践的研修体験	
人財育成委員会	・新入社員向け研修 (認定職業訓練) ・中堅社員向け研修 ・技術研修(技術向上セミナー) ・次世代交流会	研修実施 (準備)	・新入社員研修・特別企画 ・中堅社員向け研修(1)		・フォローアップ研修 ・次世代交流会(1)	(次年度計画検討)
福利厚生委員会	・交流・レクリエーション関連 ①スポーツイベント等開催 ②船釣り大会開催 ③新企画・検討 ・ヘルスケア ・福利厚生事業の広報活動 (HP、情報誌等活用による広報展開)	①スポーツイベント等開催 ②船釣り大会開催 ③新企画・検討 ・新人研修	・船釣り大会①	・フットサル開催(夏大会) ・企画検討会		・船釣り大会② ・企画検討会
事業共創委員会	・異業種研究会(交流会)への参加 ・ビジネスマッチ活動 ・大学・行政連携タスク ・新研究会テーマ(新ビジネス研究会)(農商工ビジネス研究会)		(フロネシス2008自主活動への参加)		・異業種交流セミナー ・StartUP Weekend SENDAI	
ビジネス推進委員会	・ビジネスチャンスの創出・地域貢献					
グローバルビジネス委員会		(開催内容の検討)		・準備作業		
広報委員会	(協会情報誌の戦略的活用(協会パンフレット)、会員企業データベースの戦略的活用、MISAホームページの戦略的活用、MISA SNSの戦略的活用) ・情報誌発行(第41号)					
地域連携推進	・他団体との連携によるITモデル化推進、アライアンス事業の検討推進等					
組織基盤強化	・中期事業計画の推進					
事業運営強化	UI/ターン促進事業の推進(ICT技術者の確保・育成)					

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(一般社団法人)						
		・事業運営会議(H29第3回) 委員会		・理事会(第24回) ・賀詞交歓会 ・講演会		・理事会(第25回) ・事業運営会議 (H29第4回) 委員会
		→	・法的問題対応セミナー			
	→	・体質強化セミナー実施				
→	・親睦ゴルフ大会(秋季)			・Misaliy女性交流会		・MISA交流サロン
	委員会	委員会				委員会
				・MISA IT企業就職合同ガイダンス開催(学内)		→
		→				→
		・成果発表会&修了証授与式 →				→
	委員会	委員会			委員会	
			○会員アナウンス		(準備)	→
→	・中堅社員向け研修(2) (準備)	→				
		→				
		・中堅社員研修(3) ・技術向上セミナー ・次世代交流会(2)				
	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会
	・フットサル開催(秋大会)		・鮎釣り大会③			
		・企画検討会		・企画検討会		→
	委員会	委員会		委員会	委員会	委員会
						→
		・StartUP Weekend SENDAI				→
	委員会		委員会		委員会	委員会
						→
	委員会		委員会		委員会	
	・イベント開催		・評価・まとめ		・ICTカンファレンス2017	→
	委員会					
	の活用、MISAカンファレンスに向けた広報活動等)					
	・情報誌発行(第42号)					→
	委員会		委員会		委員会	
						→
				・理事会報告		→
						→

平成28年度活動実施報告

1. 企業説明会・業界研究・教育等共同活動の実施

(1) Webサイトによる情報発信

ICT技術者UIJターン等促進事業の一環として、ホームページ「伊達なICT-WORK せんだい・みやぎ」を開設。新卒、並びに、中途採用者向け就活サイトとして活用。

(2) 出前合同企業説明会

東北地区12校を対象として延べ15回、参加企業数延べ69社の出前合同企業説明会を開催。

(3) 業界体験・企業研究講座の実施

業界研究講座を1大学(2キャンパス)に対し5日間、延べ1,550名に対して実施。

(4) 会員企業の採用力強化に向けた取り組み

各大学、専門学校、就職支援業者と本事業参加企業との連携会議(計8回開催)の中で、採用についての学生、各教育機関の視点で、意見、意向を聴取し、各企業の採用力強化に資する議論を展開しました。

(5) 教育プログラムの提供

平成27年度UIJターン促進事業を通じて採用された入社1年目人材に対する実践的スキル習得機会として、標準コース10科目、キャリアアップコース5科目の教育プログラムを提供。結果、13科目、実数55名、延べ182名受講。



2. 産学協同実践的IT教育+インターンシップ事業

(1) 大学・高専を対象としたインターンシップ

「システム開発プロジェクトの模擬体験を通じSE実務を理解することと情報システム企画開発に必要な基礎実務スキルを習得することを目的に9日間のIT業界体験インターンシップを企画。4校から32名の参加を得て開催した。

(2) 中学・高校を対象とした出前授業

県内の高校、専門学校を対象にIT業界の職業観の醸成を目的に出前授業を実施。2校76名の参加を得た。



3. 各教育機関との連携強化

(1) 大学等連携会議/職業訓練校等連携会議

ICT技術者UIJターン等促進事業の一つとして、宮城県内のICT関連企業への就業促進を目的とした「伊達なICT-WORKせんだい・みやぎ」懇話会を立ち上げた。大学等就職支援担当者との連携会議は3回、延べ27校、34名。職業訓練校等就職支援担当者との連携会議は3回、延べ19校、24名との情報交換を行った。また、各教育機関の就職課の担当者との連携会議は1回、延べ10校、10名との情報交換を行いました。

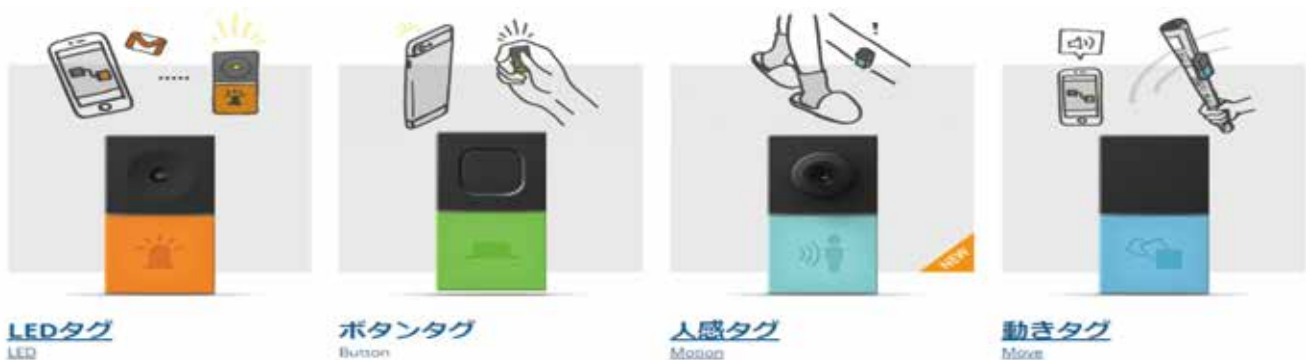


IoTとクラウドサービス (MESHの事例紹介)

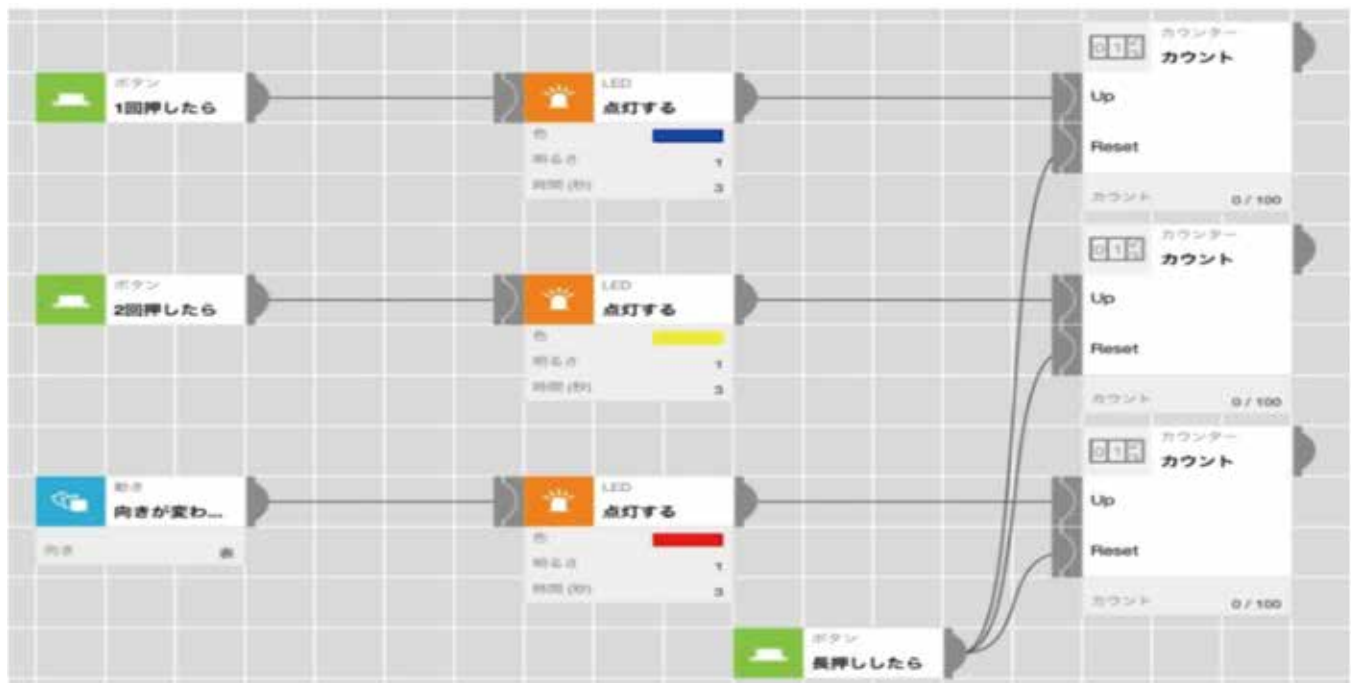
平成29年度の技術研修テーマとしてIoTを企画しております。今回取り上げるMESHはソニーの新規事業創出プログラムから生まれた事業で将来のIoTの可能性を具現化した画期的な商品です。

MESHとはセンサーが内蔵されたデバイスでMESH同士が連携し、又モーターや他のセンサーとも接続が可能です。

更にGmailやkintone、IFTTT等様々なWebサービスとも連携していきます。今後のIoTとクラウドの可能性を探る絶好の題材となると思います。



MESHに標準で付属されるアプリではノンプログラミングでデバイス間の動作設定やロジックの組み立てが可能になり、将来のプログラミング開発にも一石を投じるものになっています。



研修では様々なデモを紹介していきますので、経営者や営業職、ユーザー部門の観点からも自社の応用事例が閃くものと思います。又、SDKを用いての実装方法も解説しますので技術者にとっても興味深い内容になると思います。

正式にはメール及びMISAホームページにて告知されますが、実施日時は5月26日(金) 13:30~17:00となっております。乞うご期待!!

農業向けセンシングシステム現地見学会

事業共創委員会では、異業種との連携による新たなビジネスの創出に向けて、宮城県農業法人協会とタイアップし、水稲部門でのドローン現地飛行体験会実施や農業法人の現地視察を行うなど農業現場でのICT利活用ニーズを模索しています。

今回は、宮城県農業法人協会の会員企業主催のIT導入事例見学交流会に参加し、園芸部門でのセンシングシステム現地見学会について報告いたします。

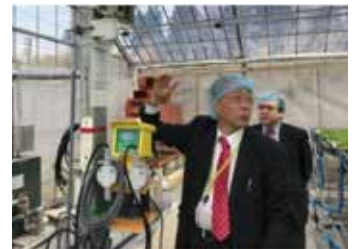
- 開催日 2017年3月29日 11:00~13:00
- 場所 有限会社 耕祐 (G-G.A.P認証) 宮城県栗原市
- 参加者 宮城県農業法人協会 3社、SJC社、MISA事業共創委員会 3社

1. (有) 耕祐 事業内容

【野菜部門】水耕野菜（サラダ菜・サンチュ・みつば・水菜他）

【水稲部門】伊達の米（ひとめぼれ・つや姫）生産販売

【施設】水耕栽培ハウス9棟、米粉乾燥調整施設1棟



2. センシングシステム導入内容

圃場遠隔監視システム「farmoni」（提供ベンダー：SJC社）

ワイヤレスセンサーネットワークシステムにてデータ蓄積と監視が可能。

施設内に温度・湿度・照度・カメラを設置し、液肥をコントロールしている。



3. ユーザのコメント

現在は生育状況が芳しくない場合の分析用データとして種苗メーカーに送るなどトラブル対策に使っている。

まだデータの蓄積が始まったばかりで、いかにデータを活用して生産量の増加や売れるためのしくみにするかが課題。最低気温、日中温度、成長率の比較、出荷率などを分析して利益に還元したいとの話がありました。

WEB型 Web Type Inventory Control System
在庫管理システム **みえぞう** miezou

クラウドに対応! <https://miezou.jp>へ
今すぐクリック

月額 29,800円(税抜)から **ご利用可能!**
無料お試し実施中

IT導入補助金対象商品
最大**100万**までの補助
6月末までの期間限定!

株式会社ピッツ

〒980-6016 宮城県仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル
TEL: 022-224-5540 FAX: 022-224-5541

製造業 医療・福祉業 卸売・小売業 サービス業
どんな業種にも対応可能!

委員会報告

第11回MISA20周年記念会長杯フットサル秋大会

福利厚生
委員会

第11回MISA20周年記念会長杯フットサル秋大会が10月29日(土曜日)、リベラ鶴巻さんで開催されました。

今大会より、オープンクラス、ビギナークラスに加え、フットサル初心者でも楽しめるようスーパービギナークラスを新設し、20チーム約225名の参加となりました。

今大会においても前大会同様、参加申込開始と同時に沢山の企業様からの申込があり、わずか5日間で申込締切となりました。

試合の方も各クラス各試合共に白熱し、オープンクラストーナメント決勝戦では、5連覇を狙うアートシステムさんとNID東北さんの熾烈な戦い、激しい攻防にて双方得点を取ることが出来ないまま決着がつかず、PK戦にもつれ込む大接戦の末、NID東北さんが激闘を制し、初優勝を成し遂げました!

また、ビギナークラスの決勝においても、東北NSソリューションズさんと富士通エフ・アイ・ピーさんの大激闘にて決着がつかず、PK戦の末、東北NSソリューションズさんが優勝!

新設されたスーパービギナークラスでは、決勝戦にてNTTデータ東北さんとサイバーコムさんによる熱い戦いが繰り広げられ、NTTデータ東北さんが見事優勝しました!

2017年度も同じリベラ鶴巻さんで開催(7/8,10/28)します。ご参加方宜しくお願い致します。

オープンクラス結果

優勝：(株) NID 東北
準優勝：(株) アート・システム
3位：(株) ケービン エレクトロニクス テクノロジー
(株) SJC
コンソレーション優勝：東北インフォメーション・システムズ (株)

ビギナークラス結果

優勝：東北NSソリューションズ (株)
準優勝：富士通エフ・アイ・ピー (株)
3位：株式会社ステップ
日本ユニシス (株)
コンソレーション優勝：NECソリューションイノベータ (株) 東北支社

スーパービギナークラス結果

優勝：(株) NTT データ東北
準優勝：サイバーコム (株)
3位：(株) 東日本技術研究所



MISA20周年記念第4回ジギング大会

福利厚生
委員会

昨年10月1日(土) ジギング大会を開催しました。

今回の参加者11名のジギング経験者で塩釜港より乗船し、仙台港の沖合にある漁場に向かいました。

当日の天気は快晴、波も穏やかで最高の釣り日和となりました。

釣果にあっては、経験者の方々だったこともあり、本命のワラサ、それにヒラメ、ホウボウ、サバの4種類が釣れ、サイズもますますでした。

【成績】(敬称略)

優勝：ワラサ 61cm 奥山 栄様 サイバーコム (株)
準優勝：ワラサ 60.5cm 田村輝仁様 (トライアロー株式会社)
準優勝：ワラサ 55cm 佐藤準一様 (株式会社システムネットワーク)



MISA中期事業計画 (平成29～31年度) 概要

☆目指す姿 (Vision)

『ICTを地域の力に』

～ 地域の明日を担う魅力あるICT産業を目指して ～

他地域・他産業・官・学と連携・協力しICTの力を地域社会の未来に役立てるとともに地域の特性を活かしてICT産業の振興を図りICTビジネスの拡大をととして地域の発展に貢献します。

1. 環境認識

(1) ICT業界と当地域に関する環境認識

■国内のIT投資 2020年までは堅調も その後は不透明

- ・東京オリンピックを境に景気の減退が予想され、ICT関連需要が落ち込が懸念。
- ・その一方で、AIやIoTといった、ICT市場のさらなる成長を牽引していくと期待されている。

■ICT人材不足は 今後ますます深刻化

- ・ICT人材は2015年時点で17万人の不足、2030年には59万人の不足と推計。
- ・ICT人材供給は2019年をピークに減少に転ずるとされており、ICT人材不足は今後ますます深刻化すると予測。

■ICT業界不人気の陰で 格差広がる企業の魅力度

- ・まだ「労働集約型産業で長時間労働が常態化しているブラックな業界」といったイメージが定着しており、大手志向、ブランド志向、安定志向の学生が増加傾向にある。
- ・一方で、企業規模や所在地によらず、新卒学生に選ばれる企業も存在しており、企業の魅力度という点では、企業間格差が拡大している。

■さらに進む東京一極集中にあって 俄然高まる仙台への期待度

日本の経済活動は依然として首都圏への一極集中であるが、人材確保拠点として、全国的に仙台への期待度、注目度が高まっており、宮城県、仙台市の企業誘致政策（進出企業への充実した支援策）の効果もあり、優秀なICT人材を求めて仙台に進出する企業が増えている。

■東日本大震災による落ち込みを脱し成長軌道へ

東日本大震災により落ち込んでいた宮城県内のICT投資についてはほぼ回復し、さらに首都圏における旺盛なICT投資の追い風を受け、当地域のICT産業の売上高も完全に回復し、さらなる成長を続けている。

2. 現状認識

(1) MISAに関する現状認識

■行政との良好な協力関係、 今後はより戦略的に

東北最大のICT業界団体として、東北経済産業局、東北総合通信局、宮城県、仙台市の関係当局と良好な

協力関係を構築できているが、今後はMISAから地方行政に対する政策提言や協同企画提案といった積極的な働きかけが求められる。

■活発で安定した事業運営がMISAのコアコンピタンス・人材の新陳代謝が課題

事務局、各委員会が機能しており、活発で安定した事業運営が行われている。しかし、メンバーの固定化状況にあることから、さらなるMISAの発展には、より一層、多様な若手人材の登用・育成が必要不可欠である。

■さらに高めたいMISAのプレゼンス

地域のICT利活用促進をうたいながらも、MISAのプレゼンスが決して高いとは言えず、ICT利活用推進に関して、地元の企業や団体等との更なる連携対応が求められている。

仙台でのニアショア開発を模索する首都圏のSlerからは、相談窓口としてMISAの存在が認知されつつあり、当地域への進出を支援している宮城県や仙台市との連携・協力も進んでいる。

また、県外から進出してきた企業を含めてMISAの新規会員も漸増傾向にある。

3. MISAが取り組むべき課題

(1) ICT産業の振興

ICTは社会発展の基盤としてますます重要度を増しており、当地域のICT産業は地域経済を支えリードする基幹産業として大きな期待と役割を担っている。また、宮城・仙台はICT人材の集積地として全国的に注目され始めており、当地域のICT産業を大きく飛躍させる絶好のチャンスが到来している。この機を逃さず、宮城県や仙台市との連携・協力を強化し、当地域のICT産業を飛躍的に発展させるべく積極果敢にチャレンジする。

また、他地域に比べ大きく遅れているグローバルなビジネス展開や海外企業との協業に向けた基盤づくりにも積極的に取り組む。

(2) 地域貢献

以下のような地域貢献を積極的に進める。

- ・ICT産業の振興により、地域経済を牽引するとともに

に、地域における雇用を拡大する。

- ・地域生活をより快適にするために、地域産業をより発展させるために、様々な主体との連携・協力によって地域におけるICT利活用を推進する。
- ・地域の未来を担う子供たちへのICT教育や就職を控えた大学生・専門学校生への業界情報提供などをおして、ICT人材の発掘・育成に貢献する。

(3) MISAのプレゼンス向上と会員企業のビジネスチャンス創出

MISAのブランド力や存在感を高め、当地域のみならず、全国からICT関連の相談が舞い込むような地位を築く。また、個々の会員企業をアピールできる機会や環境を整え、会員企業のビジネスチャンスの創出に貢献する。他団体とのコラボレーション事業や交流事業をおして、MISAの枠を越えた多様なネットワークを形成し、会員企業の経営やビジネスに寄与する有益な情報や新たな出会いの場を提供する。

(4) より働きがいのある魅力的なICT業界への変革

「労働集約型産業で長時間労働が常態化しているブラックな業界」といったイメージを払拭し、より働きがいのある魅力的なICT業界に変革するために、業界団体として「長時間労働の抑制」、「ワークライフバランス」、「生産性の向上」などの働き方改革を推進する。

業界団体として、当地域の技術・品質・生産性などのレベルアップに取り組み、魅力あるICT業界への変革を推進する。

(5) MISA活動の活性化と運営体制の強化・拡充

会員企業ならびに各委員会のメンバーを増強し、若手人材の育成・登用を積極的に進めるなどして、活力に満ちた団体運営を行う。また、会員企業への満足度調査を定期的実施し、会員企業のニーズを吸い上げ事業に反映させる。

意思決定機関（理事会）と執行機関（事業運営会議）を分離し、健全で開かれた団体運営を行う。

各事業の企画・運営母体となる委員会が、より効率よく事業展開できるよう、平成29年度内に、委員会構成の見直し、委員会構成メンバーの再編などの組織改革を行う。

4. 活動指針・価値観 (Policy, Value)

■会員企業の経営強化に寄与

社会環境や顧客ニーズの変化、それに伴う産業構造の変化を新たな成長機会と捉え、会員企業の経営強化、地域ICT産業の活性化を目指し、外部機関や他産業との協業機会の創出、ICT企業間の戦略的な連携・協力の基盤づくりに取り組む。

■地域の発展と地域ICT産業の成長・発展に寄与

行政機関との意見交換や情報共有、行政機関への政

策提言などをおして、行政機関との連携・協力を深め、ICT利活用による地域の発展と地域ICT産業の成長・発展との両立を目指す。

■公平・公正な情報発信と交流機会の創出

会員企業に対し、タイムリーで公平・公正な“情報発信”と“交流機会の創出”に努める。また、会員企業は、MISAの事業やその運営に対し、提案、要望、意見を発信できる。

■機会提供の平等と結果に対する自己責任

MISAの事業は、機会提供の平等を旨とし、その機会に対するアクションと結果については、会員企業の自己責任とする。

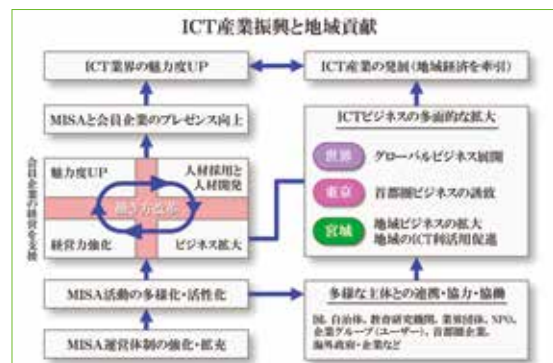
■事業の多様性で公平性を担保

会員企業の規模や事業内容などの違いを考慮し、対象の異なる多様な事業を行うことで、会員企業の利益機会の公平性を担保する。すべての会員を対象とした事業の他にも、対象は限定されるが、高い有効性が期待できる事業も行う。

■MISA事業に参画することが最大の会員メリット

会員企業は、MISAが発信する情報や実施する事業によりメリットを享受できる。さらに、MISAの事業に企画面から参画することによって、人的ネットワークを介して有益な情報やノウハウを得る機会に恵まれ、より多くのメリットを享受することができる。したがって、委員会や研究会への積極的な参加を奨励する。

5. Vision実現の成功要因 (重点テーマ)



6. Vision実現イメージ



事務局からのお知らせ

『宮城中小企業情報セキュリティ支援ネットワーク』が発足

平成29年1月26日、宮城県警察本部が主体となり宮城県内の産学官が連携し、広報啓発及び情報提供などの活動を通じて、県内の中小企業の情報セキュリティ対策をより一層推進させることを目的に「宮城中小企業情報セキュリティ支援ネットワーク」(Miyagi-CSS-Net)が発足いたしました。MISAもメンバーとして参加し、ICT関連団体としての協力・支援をしていくこととしております。

[Miyagi-CSS-Net 参加団体]

- ・ 中小企業支援団体 ((一社) みやぎ工業会等 8 団体)
- ・ 民間企業・団体等 ((一社) 宮城県情報サービス産業協会等 4 団体)
- ・ 大学 (東北大学等 4 大学)
- ・ 行政機関 (東北経済産業局等 5 機関)



事務局からのお知らせ

企業データベース利活用のすすめ

2015年4月から運用を開始した企業データベースも2年経過しようとしています。会員各企業においては積極的に活用されているでしょうか。問い合わせ件数実績からすると、まだまだですが閲覧件数ベースでは底堅く推移しています。又、Googleの検索エンジンでは「企業DB」「IT企業」のキーワードで常に上位3位以内をキープしています。

件数はまだ少ないですが、引き合い案件事例の報告も受けており、今後問い合わせ件数が伸びることが期待されます。各社、提供情報の分量の増加に努めデータベースとしての価値を高め、離脱率を抑えて、実質的なコンバージョン率の向上を目指していきましょう。



MISA ホームページの企業データベースから入ります。

レポート機能で自社の過去1年のアクセスレポートを閲覧できます。下記は全体の件数になります。

検索キーワード又は各条件指定画面から検索して下さい。会員企業はログインし、自社の提供情報の充実にも努めましょう。担当者のメールアドレスがIDになりますが、不明の場合は事務局にお問い合わせ下さい。

事務局からのお知らせ

～価値を創るIoTとITシステム開発の強化に向けて～ 『宮城の活力を創るデジタルイノベーション入門セミナー』開催

(一社)宮城県情報サービス産業協会(MISA)と独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の共催により、「宮城の活力を創るデジタルイノベーション入門セミナー」と題し、価値を創るIoTとITシステム開発の強化に向けたイベントを、2月22日、ハーネル仙台(宮城県仙台市)において、開催した。一般社団法人情報サービス産業協会(JISA)やITコーディネータ協会(ITCA)等のご後援をいただき、参加者は50名を超えた。

本セミナーは、IPAが普及を進めている、IoTを支えるソフトウェアのライフサイクルプロセス(SLCP)について正しく理解し、開発の品質、コスト、納期(QCD)を維持・向上を図ることにより、IoT時代のソフトウェア開発の基盤強化を目的として企画された。

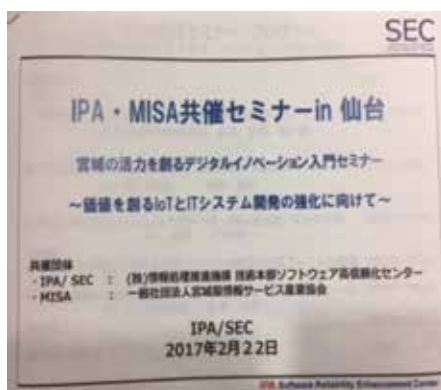
招待講演は東北経済産業局地域経済部長の岩瀬恵一氏による「IoT関連の経済産業省の取組と東北における事例について」と題して、IoT等を活用した革新的な産業モデルの創出を目的とした「IoT推進ラボ」を初めとする経済産業省の取組と地方発のIoTビジネスの創出を目的とした「地方版IoT推進ラボ」における東北の事例を紹介された。

セミナーは、IPA/SEC研究員の宮原真次氏が「IoT時代のリスクの認識と安全・安心に向けた開発のポイント」と題して、IPA/SECが策定した「つながる世界の開発指針」をもとに、IoTにおいて、セーフティ&セキュリティ設計時やITシステム開発時に考慮すべき事項について解説した。

また、IPA/SEC連携委員の室谷隆氏、倉持俊之氏より、「IoTシステム開発を支える主要プロセスの解説と共通フレームの概要」及び「小規模組織にも適用可能なプロセス改善とナビゲーションツール」について、それぞれ解説、紹介された。

その他、MISA副会長の荒井秀和氏より、「宮城のIT業界の現況と課題」について解説があり、その後、岩瀬部長、(株)ラネックスの小林社長の参加もと、「宮城県のIT利活用の今後の方向性と課題」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

ハードウェアや通信環境が大きく変化するなかで、独創性を生み出すAIやIoTなどの新しい技術への取組、また技術者の確保や働き方等が話題に上った。



事務局からのお知らせ

2016年度IPA中小企業情報セキュリティ 「講習能力養成セミナー」開催



独立行政法人情報処理推進機構、NPO法人みちのく情報セキュリティ推進機構(MISEC)の共催、全国中小企業団体中央会、東北情報サービス産業懇談会、宮城県警察本部等の後援により、中小企業が情報セキュリティ対策を実施・支援する際に必要な実践的知識を学んでいただくための無料セミナー「中小企業情報セキュリティ講習能力向上セミナー」を11月22日、ハーネル仙台において開催した。情報セキュリティ対策への取組が企業活動の重要な課題となっており、参加者は50名を超えた。

本セミナーは、IPAが全国各地域団体等から公募選定により開催されるもので、MISAが応募し仙台開催となったものです。

「実施したプログラム」

・第一部

「10大脅威」や「映像で知る情報セキュリティ」を用いた、講習会の組み立て方や効果的な進め方

・第二部

セキュリティ関連ガイドラインやマイナンバーの安全管理措置等



私たちTOiNX（トイックス）は、
ITで実現する新たな価値を
地域社会に拡げ続けます。

ともに手を取りあい、
どんな時も誰よりも近くで、
しっかり支え、キッチリ守ります。

さらに、一歩踏み込んだ提案をし、
期待をこえる感動を届けます。

 トイックス
TOiNX
ITで、感動を、ともに。

東北インフォメーション・システムズ株式会社
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10 セントレ東北
TEL 022-799-5555 (代) FAX 022-799-5561
<http://www.toinx.co.jp/>



会員企業

NEW

技術情報 Part1

SRA Tohoku, Inc.

SRA東北は創業30周年の仙台のIT企業

SRA東北は2016年に創業30周年を迎えた仙台のIT企業です。地元密着型の企業として仙台、宮城県、東北のお客様を中心にシステム開発を行ってきました。SRA東北では次の50周年を見据えた新しい取り組みも始めています。今回はその一部をご紹介します。

1. 新入社員入社しましたその名もPepper

SRA東北の新しい取り組みの一つにロボットへの取り組みがあります。2015年の7月にソフトバンク社様製のPepper君が入社しました(笑)。入社した2015年は7月から月一回程度、社内のイベントから社外のイベントまでPepper君に参加してもらい、イベントを盛り上げてもらいました。最近ではビジネスとしてのお問い合わせもいただいております。少しずつ新しい取り組みが形になってきています。



2. 仲間も増えました「ロボット3兄弟」

2015年7月に入社したPepper君を皮切りにSRA東北ではロボットの採用が増えてきています。2016年4月には国内産のロボット「Sota(ソータ)」君が入社し、2016年8月には「ココロ、動く電話、ロボホン」君が入社しました。1台のPepper君から始まったロボットへの取り組みも今では3台のロボットで新しい取り組みを行っています。SRA東北のロボット3兄弟から目が離せない?

3. ロボットのエンジンにIBM Watson

SRA東北ではロボットだけでなく、AI、コグニティブ・テクノロジーにも取り組んでいます。取り組みの一つとしてコグニティブ・テクノロジーIBM Watson(ワトソン)のソフトバンク社様のエコシステム・パートナーに参加しています。コグニティブコンピューティングのIBM WatsonからロボットのPepper、Sotaなど様々なITテクノロジーを日々研究しています。



東北を日本の観光地に!

4. インバウンドに向けた東北の情報発信

SRA東北では地域密着への取り組みとして仙台の勝手に応援情報発信サイト「SENTOKO」を運営しています。震災以降の風評被害の影響がまだ残る地域の良さを世界に向けて発信中です。SENTOKOは日本語のサイトの他に英語、簡体字、繁体字の4つのサイトを運営しています。簡体字、繁体字については中国出身の弊社エンジニアが翻訳しており、グローバルな情報発信を行っています。

新入会員紹介 (平成28年10月1日以降の入会)

正会員-入会

賛助会員-入会

会員数 (正会員・・・157社 賛助会員・・・53社)

入会日	会員名 (代表者名)	住 所 TEL・FAX
1月11日	(株)テセラクト (代表取締役社長 小泉 勝志郎)	〒985-0021 塩釜市尾島町8-20 TEL 090-8616-1431
2月24日	イーストライズ(株) (代表取締役社長 花塚 勇三郎)	〒020-0022 岩手県盛岡市大町3-2-8 岩手金属工業会館5F TEL 019-601-6562 FAX 019-601-6563
4月1日	(株)シーエスデー (東北事業所長 氣仙 利明)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-1-31 山口ビル7F TEL 022-262-0330 FAX 022-225-6278
4月1日	(株)CREA HUMAN (代表取締役 栗山 大治)	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-7 裕ビル6F TEL 022-796-1261 FAX 022-797-5945
11月14日	エルグシステム(株) 仙台営業所 (ITソリューション本部長 小川 猛)	〒982-0031 仙台市太白区泉崎2-26-9 TEL 022-226-7078 FAX 022-226-7079
12月1日	(株)アイシーシーコンピュータシステム (代表取締役 南 雄二郎)	〒030-0112 青森市第二問屋町4-11-18 ソフトアカデミービル4F TEL 017-762-1441 FAX 017-739-1080
1月1日	テックスエンジソリューションズ(株) (代表取締役 疋田 圭介)	〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-8-8 住友不動産猿楽町ビル TEL 03-6880-3300 FAX 03-6880-3300
1月20日	(株)コー・ワークス (代表取締役 淡路 義和)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-8-10 京成寺番町ビル203 TEL 022-221-4902 FAX 022-399-7396
4月1日	マジックソフトウェア・ジャパン(株) (代表取締役社長 佐藤 敏雄)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-3-11 Human青葉通ビル9F TEL 022-217-0376 FAX 022-217-0378
4月1日	(株)ACD (代表取締役社長 浅沼 映夫)	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通1-6-30 パレ日影門201号 TEL 019-613-2236 FAX 019-613-2238
4月1日	(有)ST-WORKS (代表取締役 水沼 正樹)	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-11-29 イキビル2F TEL 022-267-0336 FAX 022-267-0388

(敬称略)

MISA徽章を作成しました！

設立20周年を節目として、オールMISA、更なるMISAのプレゼンス向上を目的にMISA徽章を作成しました。理事、監事の方々には写真左側金の徽章、各委員長、副委員長の方々には写真右側銀の徽章を用意しました。MISA理事会、通常総会、事業運営会議及びMISA会員として対外的な活動でMISAをPR頂きます。



この徽章のデザインは、「第3回国連防災世界会議公式ロゴマーク」をデザインした仙台市在住のグラフィックデザイナーで(株)ナナイロの「佐藤悠(さとうゆう)」氏にお願いし、快く引き受けて頂きました。詳しいプロフィールは<http://sendaischoolofdesign.jp/archives/14263>をご覧ください。